

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 205 回 いい加減にしませんか？「六本木ヒルズ族」

2007.6.11

- お客様の立場にたて、究極の満足を与えよ
- 夢と志を持ち、常にチャレンジせよ
- 困難の先に栄光がある、逆境を乗り越えよ
- 物事の本質を見抜け、雑音に動じるな
- 原因があるから結果がある、公正に判断せよ
- 積極果敢に攻めよ、守りは負けの始まりなり
- スピードは力なり、変化をチャンスと思え
- 自信をもて、謙虚さと思いやりを持って
- 笑顔と共に明るくあれ
- 正しくないことをするな、常に正しい方を選べ

大変立派な「十訓」は、グッドウィルグループ・ホームページから掲載させて頂いた。社員の一日は、この「十訓」を大きな声で連呼することから始まると聞いている。連結売上で 1,859 億円を誇る日本最大の人材派遣業「グッドウィル」と、やはり我国最大の介護支援事業「コムスン」の総帥である折口雅博氏（46 歳）、彼が目指したものは、一体何だったのだろうか？

幼いころ父の事業が失敗し辛苦を舐めた折口少年は、15 歳で陸上自衛隊工科学校へ入学、その理由は学びながら給料が貰えたからである。防衛大学校を卒業後、大手商社・日商岩井に入社、かの有名な「ジュリアナ東京」のプロデュースに関わっていく。彼が 33 歳で人材派遣業「グッドウィル」を設立、36 歳で「コムスン」を買収、その社長に就任する。その後は彼の特異稀なる経営手腕で、順調に業績を伸ばし、40 歳で上場、42 歳で日本経団連の理事に就任し、憧れの田園調布に居を構え、自家用ジェットを乗り回し、今や若年成金の梁山泊となった「六本木ヒルズ」に事務所を置く、現代版立身出世の「シンデレラボーイ」となった。経団連の理事就任や、多額の寄付をすればもらえる紺綬褒章受賞がよほど嬉しいのか、ホームページの至る所に「自慢気」に記載されている。彼の著作は一冊も読んでいないが、売れているらしい。

いい加減にせんか！「ヒルズ族」！！どうでもいい話だが、小生、この手の若者、最も嫌いなタイプである。善意を建前に裏で不正をはたらく...論外であろう。もちろん彼の才能は小生の比でないところ、十分認める。しかし、いくらお金持ちでも、あんな人間にはなりたくない...そんな類の青年で、彼に憧れ、彼を目指している多くの青少年が可哀想で仕方がない。先の「十訓」が滑稽で、偽善的に映る。毎日大声で連呼する社員が惨めに見える。日本を代表するリーディングカンパニーのトップたる自覚と、人間としての教養を求めることは、聡明なる折口氏のこと、不可能ではないと願っている。